

平成28年度 病虫害防除技術情報 第5号

平成29年3月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

イチゴハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）の防除徹底について

病虫害対策チームが2月中旬に行った巡回調査では発生圃場率55.6%（平年42.0%、前年：70.0%）、寄生株率23.6%（平年：8.2%、前年：20.4%）と平年に比べ高い状況でした。

向こう1ヶ月の気象予報によれば、本虫の発生に好適な気象条件が続くと予想され、さらに発生が増加すると予想されます。発生が見られた圃場では、速やかに防除を実施して下さい。

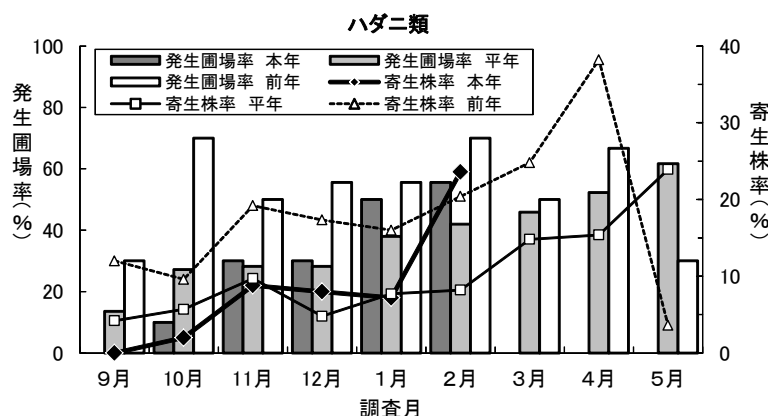


図 病虫害発生予察巡回調査におけるハダニ類の発生推移

1. 防除対策

- (1) 本虫の増殖力は高いため、早期発見、早期防除に努める。
- (2) 本虫は下葉の裏に多く生息するので、なるべく摘葉作業後に薬剤散布を行い、薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。
- (3) カブリダニ製剤等の天敵資材を導入する圃場では、薬剤によっては長期間天敵資材に悪影響を及ぼすものがあるため、薬剤の選定にあたっては十分に注意する。天敵放飼前に薬剤散布を行いハダニ類の発生密度を低くする。また、本虫が増えすぎて天敵で抑えきれない場合は、薬剤防除に切り替える。
- (4) 気門封鎖剤は薬剤散布液が直接本体にかからないと効果がないため、十分に薬液がかかるように丁寧に散布する。また、卵に活性がないため使用する際は複数回散布を行うか、卵に活性がある剤との体系防除を行う。薬害を生じる恐れがあるためラベル等をよく確認し使用する。
- (5) 抵抗性個体群の出現を回避するために、薬剤はローテーション（輪番）使用する。

使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病虫害対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。

（ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>）

